

咀嚼機能制御補綴学実習（木本克彦）

Training of Prosthodontics and Oral Rehabilitation (Katsuhiko Kimoto)

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② 補綴・インプラント学
- ③ 補綴治療学
- ④ デジタル・デンティストリー
- ⑤ 高次脳機能

授業概要

歯の形態異常や実質欠損あるいは喪失によって引き起こされる咀嚼機能障害に対して、人工ならびに生体材料によって口腔の形態および機能と外観を回復し、顎口腔系の健康維持を図るための補綴治療および予防法について理解を深める。本実習では、咀嚼機能を制御するクラウン・ブリッジ・インプラント・義歯などの補綴治療の術式やそれに関わる新規材料の選択、さらには咬合咀嚼刺激による全身疾患と高次脳機能の関連について実習する。また、日常の臨床現場から生まれる疑問、すなわちリサーチクエスション(RQ)を設定し、研究計画の立案実習も行い、咀嚼機能制御補綴学の専門知識を実技を通じて高度化することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

咀嚼機能制御補綴学は、失われた顎口腔機能を回復し、健康に過ごすための予防医療の構築までを包括する学問であり、実習を通じて必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① 補綴学研究計画立案実習 10コマ
実習を通じて、問題発見能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
- ② クラウン・ブリッジ補綴学実習 10コマ
歯周治療を包括したクラウン・ブリッジ補綴治療の高度な術式と手技を教授する。
- ③ 有床義歯補綴学実習 10コマ
顎補綴を含めた義歯治療の術式と手技を教授する。
- ④ 口腔インプラント治療学実習 10コマ
インプラント治療の基本的な手技を教授する。
- ⑤ デジタル歯科医学実習 10コマ
デジタル歯科治療の術式と基本的な手技を教授する。
- ⑥ 咀嚼健康科学実習 10コマ
咀嚼に関連する脳機能分析や唾液解析の基本的な手技を教授する。

実習担当教員 木本克彦 齋田牧子 川西範繁 本間優太

教科書および参考書

咀嚼機能補綴学実習 配布プリント

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、実習内容を指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題を発見し補綴的研究計画の立案ができる。
- ② クラウン・ブリッジ補綴治療の理論を理解し実践することができる。
- ③ 義歯治療の理論を理解し実践することができる。
- ④ インプラント治療の理論を理解し実践することができる。
- ⑤ デジタル歯科治療の理論を理解し実践することができる。
- ⑥ 咀嚼に関連する脳機能分析や唾液解析の理論を理解し実践することができる。

評価

| 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 | ポートフォリオ | 口頭試問 | 実技 | その他 |
|-----|------|------|------|---------|------|-----|-----|
| 10% | 0% | 60% | 0% | 0% | 0% | 30% | 0% |

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回10%
- ・レポートは、授業計画の6項目について課題を提出する。10%×6回=60%
- ・実技は、授業計画の6項目についてプロダクト達成度を判定する。5%×6回=30%

理想的な達成レベルの目安

咀嚼機能制御補綴学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。